

平成16年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	74	学校名	茨城県立取手松陽高等学校					課程	全日制	学校長名	岡田 寛					
教頭名	日向 猛									事務(室)長名	軽部 正江					
教職員数	教諭	51	養護教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	45	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	2	計	110
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	89	116	125	117	114	128			328	361	17				
	美術科	1	30	2	29	3	26			6	85	3				
	音楽科	6	22	4	19	3	20			13	61	3				

2 目指す学校像

本県教育目標の具現化を図るため、学校・家庭・地域社会と緊密な連携を取りながら、教職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動に積極的に取り組み、明るく活力のある学校。具体的には、全日制普通科、美術科、音楽科を併せ持つ特色ある学校の確立を図るために、すべての学科において、高い進路目標実現のための進路指導を充実させることをその中心に据え、保護者・生徒が「入学させてよかった」「卒業してよかった」と言える学校づくりを目指す。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導 進路指導	生徒の能力差がある。家庭学習時間が少ない。	自学の習慣づけと充実した授業の確立。
	国公立大学合格者数がまだ少ない。	高い目標に対する意識づけ。
生徒指導	服装等についての意識がまだ不十分である。	マナーの高揚をどのように図るか。
特別活動	生徒会活動・部活動参加者が減少している。	問題点の洗い出しが必要。

4 中期的目標

- 1 多様な生徒に対応した基礎・基本の定着と、きめ細やかな指導を推進するとともに、進学指導の観点から、日々の授業の工夫・改善を図る。
- 2 一人ひとりの生徒の自己実現を図るため、3年間の系統的な進路指導の充実を図る。
- 3 地域の信頼を得るためにも、地域の学校等と連携を深めると同時に、開かれた学校づくりを進める。

5 年次ごとの重点目標

年次	重点目標	具体的目標	達成状況
1年次	授業内容の工夫・改善と生徒の基礎的学力の向上を図る。 国公立大学や難関私立大へ挑戦する進学対策を確立する。 規範意識を身につけさせるための取り組みをする。 特別活動、部活動を活性化させ、学校生活を充実させる。	教科のシラバスを作成するとともに、家庭での学習習慣の徹底を図るため、保護者への理解と協力を得るように努める。 土曜日や長期休業日を活用した補習や受験用ビデオを活用したサテライト講習を体系化し、進学指導を充実させる。 ホームルームや集会における啓蒙とともに、県のマナーアップ事業をふまえ、きちんとした制服着用の意識づけをする。 地域の行事への参加や地域の施設などと連携し、奉仕活動や体験活動を積極的に実施する。	
2年次	授業内容の工夫・改善と生徒の基礎的学力の向上を図る。 国公立大学や難関私立大へ挑戦する進学対策を確立する。 規範意識を養うとともに、自主・自律の力を育てる。 特別活動、部活動を活性化させ、学校生活を充実させる。	教員相互の授業公開や研修を通じて指導の充実を図り、進路実現に向けたきめ細かな授業を展開する。 国公立大学合格者数二桁を目指すとともに、難関大学合格者数の向上を目指す。 生活習慣の確立を促すとともに、年間の遅刻者数の減少を目指す。 特別活動や部活動への参加を奨励し、生徒自身が行事を主体的に企画・運営できる能力を高める。	
3年次	授業内容の工夫・改善と生徒の基礎的学力の向上を図る。 国公立大学や難関私立大へ挑戦する進学対策を確立する。 規範意識を養うとともに、自主・自律の力を育てる。 特別活動、部活動を活性化させ、学校生活を充実させる。	生徒の実態に合わせた適正なカリキュラムの編成や校内研修会、研究授業、授業評価等を活用した実践活動をする。 過去2年間の結果をふまえ、進路後援会や高大連携などの取り組みを拡充し、さらに進学実績の向上を図る。 基本的な生活習慣を定着させ、社会や学校でのルール・マナーを遵守する指導を継続する。 行事に対して生徒が主体的に企画・運営できるような工夫を図り、部活動を活性化させるための加入率増加を図る。	